

瀧原宮 瀧原竝宮

熊野街道の通る滝原の山間にご鎮座される瀧原宮・瀧原竝宮は、皇大神宮の別宮で、古くから「遙宮」として信仰を集めています。深い杜に囲まれた神域は四十四ヘクタールの広さがあり、二所の別宮の他に、所管社の若宮神社、長由介神社がお祭りされ、御船倉も古来の姿を伝えていています。樹齢数百年を数える杉の木立に囲まれた参道の長さはおよそ六百メートルあり、この参道と並行して流れる頓登川の清らかな谷水の流れが御手洗場となっています。

伊勢の神宮

「お伊勢さん」と親しまれる伊勢の神宮は、二千年に及ぶ悠久の歴史を有し、皇室の御祖神をお祭りする宮として、全国からの崇敬を集めています。

正式名称は「神宮」であり、神宮は、皇大神宮(内宮)、豊受大神宮(外宮)の両正宮を中心として十四所の別宮、百九所の摂社・末社・所管社合わせて百二十五の宮社の総称です。これらの宮社は、広く伊勢・松阪・鳥羽・志摩の四市、度会・多気(二郡)にわたってご鎮座しています。神宮では、日々、日本の平安や五穀の豊穰などをお祈りし、年間千数百回にのぼるお祭りが行われています。



十四所の別宮

神宮には、皇大神宮に荒祭宮、月讀宮、月讀荒御魂宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮、瀧原宮、瀧原竝宮、伊雑宮、風日祈宮、倭姫宮の十所、豊受大神宮に多賀宮、土宮、月夜見宮、風宮の四所、合わせて十四所の別宮があります。

別宮とは、正宮(本宮)に対する別宮(別け宮)であり、正宮につぐ重要なお宮です。古くは天皇の勅書により、後には官符をもって、宮号を宣下された神社だけが宮号を称しました。現在も、年間のさまざまなお祭りや式年遷宮は正宮に準じて行われます。



所在地：度会郡大紀町滝原872
電話：0598-86-2018
アクセス：JR紀勢本線 滝原駅より1.5km
紀勢自動車道 大宮大台ICから8分



皇大神宮別宮 瀧原宮 瀧原竝宮



神宮司庁

〒516-0023 三重県伊勢市宇治館町1
電話 0596-24-1111(代)
<https://www.isejingu.or.jp/>





瀧原宮

両別宮とも皇大神宮に準じた神明造で、御屋根の鰹木は偶数の6本、千木は内削(水平切)となっています。

瀧原竝宮

瀧原宮 瀧原竝宮

御祭神

瀧原宮 天照坐皇大神御魂
瀧原竝宮 天照坐皇大神御魂

瀧原宮、瀧原竝宮とも天照坐皇大神御魂をお祭りしています。天照大神は、国の内に隈無く光が照り徹ると称えられる、日本人の大御祖神です。その御魂をこのように二宮に並べてお祭りするのは、皇大神宮に天照大神を、同別宮荒祭宮に天照大神の荒御魂を奉祀する姿の古い形といわれています。江戸後期編纂の『大神宮儀式解』に、竝宮について「瀧原宮は本宮(皇大神宮)の御霊を拝奉るなり。その瀧原宮の御神の荒御魂をまつる歟」とあるように、天照大神の荒御魂とも考えられているのです。



参道入り口の鳥居

参道

ご鎮座の由緒と歴史

瀧原宮、瀧原竝宮のご鎮座の由緒は大變古く、『倭姫命世記』によると、約二千年前まで遡れます。第十一代垂仁天皇の皇女倭姫命が御杖代として天照大神を奉戴し、ご鎮座の地を求めて、宮川下流の磯宮をお発ちになりこの地においでになると、「大河之瀧原之国」という麗しい土地があり、この地に宮殿を造立されたのが起源とされます。このとき、宮川の急流に困られたご一行を、真奈胡神がお出迎えしてお渡し申し上げたため、倭姫命はその場所に真奈胡神をお祭りする御瀬社をお定めになりました。これが現在の皇大神宮撰社多岐原神社で、瀧原宮から道なりに約六キロメートル

北方、大紀町三瀬川の宮川を望む崖の上にご鎮座されており、その地には近年まで熊野街道の「三瀬の渡し」がありました。瀧原宮は延暦二十三年(八〇四)に編纂された『皇大神宮儀式帳』には「天照大神遙宮」「延喜式」に「大神遙宮」「伊勢と志摩との境の山中、大神宮西を去る九十里」とあり、奈良時代の編集を伝える『伊勢国風土記逸文』には「瀧原神宮」と記されているなど、その由緒の深さがうかがわれます。瀧原竝宮のはじまりについては不明な点が多く、種々の解釈がなされていますが、平安中期には瀧原宮同様式年遷宮の制度が定まっていたと思われる。



若宮神社 わかみやじんじや

瀧原宮の東、石段を上がった場所に南面して立つ瀧原宮の所管社です。古来、御祭神は詳らかでなく、天水分神との伝説が残ります。



長由介神社 ながゆけじんじや

御敷地の東端に西面して立つ所管社で、同じく所管社である川島神社が同座されています。両社ともきわめて古い由緒とされていますが、詳細は不明となっています。



御船倉 みふなぐら

「御船殿」とも呼ばれ、『儀式帳』にも「御船殿一字」とあり、古くから存在する建物です。ご神体を覆う御樋代をお納めする「御船代」を収納する倉とされていますが、古代以来の宮川の水上交通を象徴するという説もあります。御船倉は現在、正宮はじめ他の宮社には存在せず、瀧原宮のみにあり、式年遷宮の度、他の殿舎とともに造営されています。

恒例のお祭り

年中の恒例祭及び臨時祭には正宮に次いで丁重にお祭りが奉仕され、祈年祭、月次祭、神嘗祭、新嘗祭には皇室から幣帛が奉られます。

建国記念祭(2月)

1月1日	歳旦祭	午前8時	大御饌
1月3日	元始祭	午前10時	奉幣
2月11日	建国記念祭	午前8時	大御饌
2月20日	祈年祭	午前10時	奉幣
2月23日	天長祭	午後10時	由貴夕大御饌
5月14日	風日祈祭	午後10時	由貴朝大御饌
6月22日	月次祭	午前2時	由貴朝大御饌
6月23日	月次祭	午前10時	奉幣
8月4日	風日祈祭	午後10時	由貴夕大御饌
10月22日	神嘗祭	午前2時	由貴朝大御饌
10月23日	神嘗祭	午前10時	奉幣
11月26日	新嘗祭	午前8時	大御饌
12月22日	月次祭	午後10時	奉幣
12月23日	月次祭	午前2時	由貴朝大御饌
12月23日	月次祭	午前10時	奉幣

※他に、崇敬者の申し出により、7月22日と、10月に日を選んで、夏の御祭、秋の御祭が行われます。

式年遷宮

神宮では二十年に一度、殿舎や御装束神宝を新たにしてお祭りし、大御神にお遷りを願う「神宮式年遷宮」を行います。千三百年にわたって続けられてきた神宮最大のお祭りです。『太



瀧原宮遷宮祭 奉幣(平成26年)

神宮では二十年に一度、殿舎や御装束神宝を新たにしてお祭りし、大御神にお遷りを願う「神宮式年遷宮」を行います。千三百年にわたって続けられてきた神宮最大のお祭りです。『太神宮諸雑事記』によると、天

平十九年(七四七)に別宮遷御の記載があり、奈良時代には現在と同じように、別宮でも式年遷宮が行われていました。第六十二回神宮式年遷宮は平成二十五年秋、両正宮とそれぞれの第一別宮で行われ、瀧原宮、瀧原竝宮でも、平成二十六年秋に式年遷宮が行われました。現在の殿舎は東側の御敷地にあり、西側は古殿地となっています。同時に所管社等のお社も新たに、遷座が行われました。